

岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリーII
岐阜県多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内
開館時間: 10:00-18:00(入館は17:30まで)
休館日: 会期中無休(ただし10月18日は12:00より開館)

主催: 国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会、
岐阜県現代陶芸美術館
実施主体: 一般社団法人セラミックパレー協議会
展覧会ディレクター: 佐藤 卓(TSDO)
企画: 佐藤 卓(TSDO)、橋本麻里

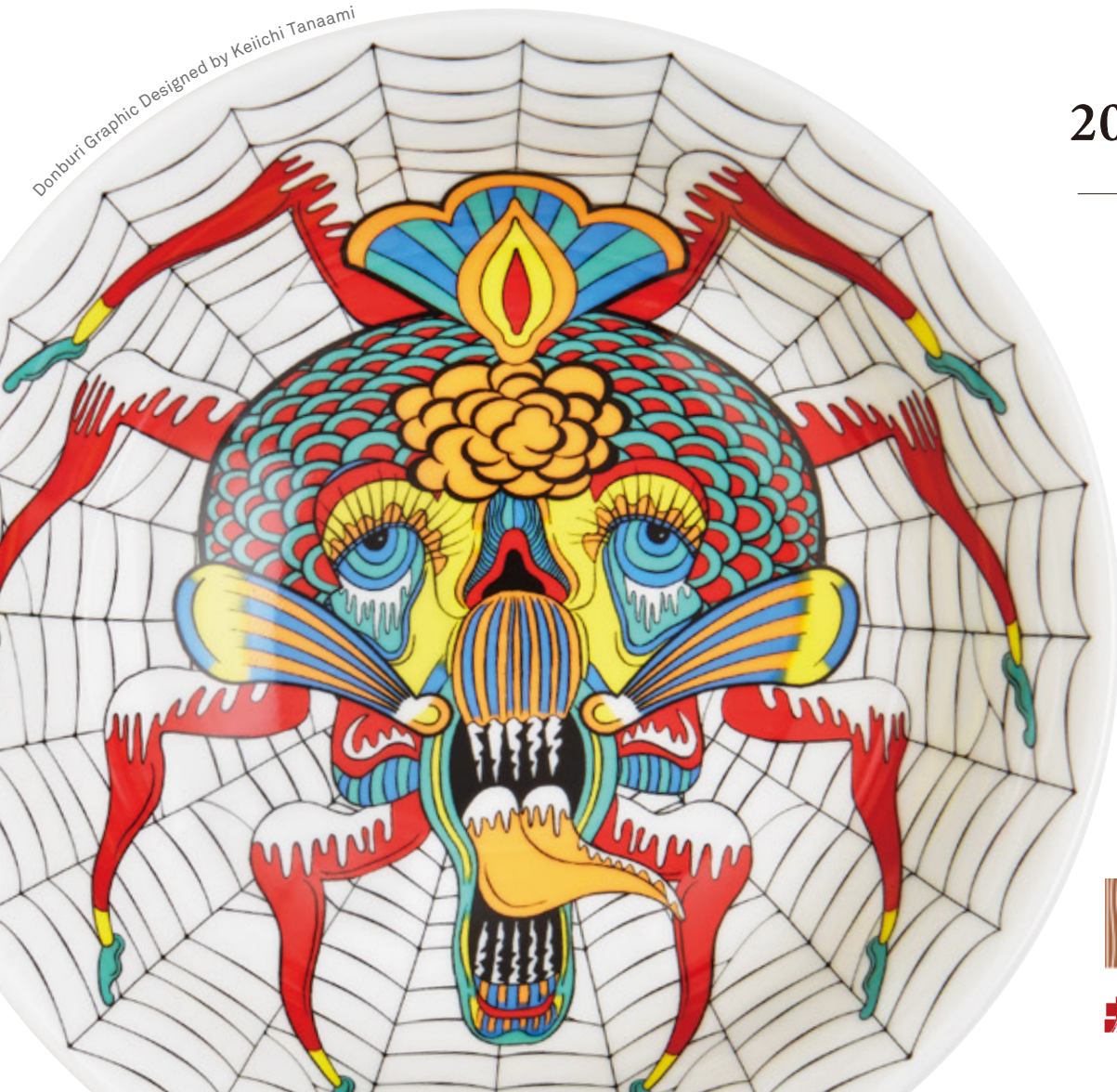
<https://www.cpm-gifu.jp/museum/>

The Art of the RAMEN Bowl



美濃の ラーメンどんぶり展

Donburi Graphic Designed by Keiichi Tanaami



2024.10.18 Fri.

— 11.17 Sun.

観覧無料

岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

国際陶磁器フェスティバル美濃'24
INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL MINO'24, JAPAN

美濃の
ラーメン丼とレンゲ
参加作家
(五十音順、敬称略)

アーティストラーメン丼

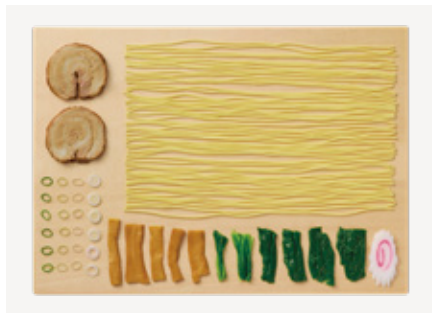
- 秋山具義
浅葉克己
アラン・チャン
粟辻美早
石上純也
一乗ひかる
上西祐理
片桐仁
唐長 千田優希
菊地敦己
北川一成
佐藤晃一
佐藤 卓
佐野研二郎
塩川いづみ
ジョナサン・バーンブルック
鈴木文女
祖父江 慎
田名網敬一
束芋
天明屋尚
土井善晴
仲條正義
永井一史
永井一正
服部一成
松永 真
皆川 明
森田恭通
横尾忠則

伝統的技法ラーメン丼

- 安藤 工
加藤仁香
加藤三英
加藤陽児
加藤亮太郎
阪口浩史
富岡大資
榛澤 宏
吉岡伸弥
若尾 経



上/横尾忠則 丼 下/皆川明 丼
photo: Hiroshi Tsujitani (Nacasa & Partners inc.)



ラーメンの解剖/具材
photo: Takuya Igarashi (amana inc.)



陶磁器製品に使用する原土の探掘鉱山
photo: Yusuke Nishibe

表上/ラーメン丼 photo: Yusuke Nishibe
表下/田名網敬一 丼 photo: Hiroshi Tsujitani (Nacasa & Partners inc.)

岐阜県現代陶芸美術館 同時開催:

「清流の国ぎふ」文化祭2024
生誕130年 荒川豊蔵展
2024年9月14日(土)~11月17日(日)
ギャラリーI

Ways of Earth
2024年10月18日(金)~11月17日(日)
プロジェクトルーム

美濃のラーメンどんぶり展

The Art of the RAMEN Bowl

ラーメン丼を覗いて見える美濃焼の世界。

この度、岐阜県多治見市の岐阜県現代陶芸美術館にて2024年10月18日(金)~11月17日(日)に「美濃のラーメンどんぶり展~The Art of the Ramen Bowl~」を開催いたします。

この企画展の発端は、いまから10年前に遡ります。東京・銀座の松屋銀座「デザインギャラリー 1953」の正月企画展で、デザイナーの佐藤卓氏によるディレクションのもと、様々なジャンルのアーティストがデザインした「ラーメン丼とレンゲ」を展示する「美濃のラーメンどんぶり展」を開催しました。その7年後、思わぬ契機を得て、2022年3月にはアメリカ・ロサンゼルスにある「JAPAN HOUSE LA」、10月にブラジル・サンパウロの「JAPAN HOUSE São Paulo」へと巡回、いずれの会場も多くの方が来場し、好評を博しました。

なぜ「ラーメン丼」なのか?

中国起源のラーメン(拉麺)は、日本で麺料理として独自の発展を遂げ、現在では世界各地で受け入れられています。日本においては国民食と言っても過言ではありません。ところが、その食器であるラーメン丼の90%が美濃で生産されていることは、ほとんど知られていません。伝統的工芸品※の織部焼や志野焼なども同地域の作で、茶の湯の世界で評価されているにもかかわらず、美濃焼の認知度は沈滞気味です。そこで、多くの人が手にした経験のある「ラーメン丼」を軸に据えて、美濃焼への親しみや関心を持ってもらえる機会をつくろうと考えました。

そして、このたび、美濃焼の本拠地で、これまでの内容を拡充して展示を行います。アーティストによる「ラーメン丼とレンゲ」の新規制作はもちろん、ラーメンをめぐる食文化やその歴史、ラーメン丼の解剖、生産地の情報など、より一層楽しめる内容にバージョンアップします。また、焼き物製作の肝となる、美濃の「土」にフォーカスした展示空間も設けます。1300年以上、この地の窯業を支えてきた、高度な土のデザインもあわせ、美濃の底力を会場内で感じていただけたら幸いです。

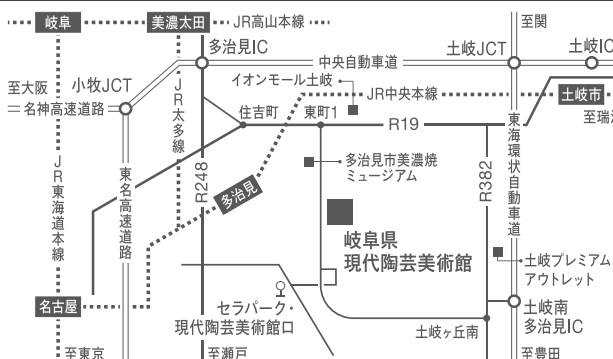
※伝統的工芸品産業の振興に関する法律による指定を受けるもの

日本国内のラーメン丼の約9割が、美濃焼でつくられていることをご存知だったでしょうか。美濃焼の多様性を世界にお伝えする入り口として、今や世界中で愛されているラーメンのための器「ラーメン丼」を取り上げました。日本のラーメン文化から丼の解剖、そしてアートとしての丼から、最後は美濃焼が多様に展開してきた背景にある土の世界に皆様をいざないます。本邦初公開のビジュアル、美濃焼曼荼羅も必見です。

展覧会ディレクター 佐藤 卓

主催: 国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会、
岐阜県現代陶芸美術館
実施主体: 一般社団法人セラミックバレー協議会
展覧会ディレクター: 佐藤 卓 (TSDO)
企画: 佐藤 卓 (TSDO)、橋本麻里

グラフィックデザイン: TSDO (鈴木文女、長谷川 桃、足立 優)
会場構成: 岐阜県商品開発研究所 (林 弘之、小谷 さくら)
テキスト: 橋本麻里、土田貴宏、Japan House LA、杉江あこ
写真: 西部裕介、高野ユリカ、五十嵐拓也、飛知和正淳



公共交通機関でのアクセス

- 東京・大阪方面→名古屋駅でJR中央本線に乗り換え多治見駅から
◎タクシー 約10分
- ◎多治見市コミュニティバス「オリベ観光ルート」
約20分→「セラミックパークMINO」下車
※土・日・祝のみ運行
- ◎東鉄バス「瑞浪駅前」行き、「妻木上郷」行き、「駄知」行き 約15分→「セラパーク・現代陶芸美術館」下車→徒歩約10分

お車でのアクセス

- ◎東京方面・東名高速→豊田JCT経由、新東名高速→豊田東JCT経由
- ◎高山方面・東海北陸自動車道→美濃関JCT経由
- ◎長野方面・中央自動車道→土岐JCT経由
東海環状自動車道 土岐南多治見ICから 約5分
- ◎大阪方面・名神高速→小牧JCT経由
中央自動車道 多治見ICから国道19号を土岐・中津川方面に約10分 東町1の交差点を右折

〒507-0801 岐阜県多治見市東町 4-2-5
(セラミックパークMINO内)
TEL 0572-28-3100 FAX 0572-28-310

